

# 皆野・長瀨ロータリークラブ

週報

◇例会日 第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30  
◇例会場 長瀨レクリエーションホテル 養浩亭  
◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀨町長瀨1446 養浩亭内  
Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp



## IMAGINE ROTARY

イマジン  
ロータリー

### 第1589回例会 令和4年8月4日(木)

#### 【会長の時間】

畝 徳治

皆さん、こんにちは。世間でよく日本人の特性という事で話題になって、非常に有名なのは、日本人は健忘症だと。燃える時には一気に燃えるけれども、すぐに忘れると。健忘症という言葉聞いた時には、戦後の話なのかと。戦争の辛さを忘れてしまうという事を揶揄して健忘症と言うのかなと思っていました。それよりも前に渋沢栄一が生きた時代から外国人から見ると日本人はそうだったと。渋沢栄一さんの講演記録の中にも残っています。私も驚きましたので、紹介させていただきます。渋沢栄一さんが聞いた話という事です。いずれにしても大正よりも前か大正時代です。



かつて交換教授として米国より来朝せられたメービー博士が、任満ちて帰国せらるるに際し、赤誠(誤り、飾りのない心、真心)を傾けて私に語られた種々なる談話の中に、下のごとき標語がある。すなわちメービー氏の言うには、「私は初めて貴国に来たのであるから、すべてのものが珍しく感じた。如何にも新進の国と見受け得る所は、上級の人も下層の人も、すべて勉強しているということは、著しく眼につく、惰けている者が甚だ少ない。しかしてその勉強が、さも希望を持ちつつ愉快地勉強するように見受けられる。」.....

それからまた、わが国民性の感情の強いということについて、あまり讃辞を呈さなかった。日本人は細事にもたちまちに激する。しかしてまた、ただちに忘れる。つまり感情が急激であって、反対にまた健忘性である。これは一等国だ大国民だと自慢なさる人柄としては、頗る不適當である。もう少し堪忍の心を持つように修養せねばいけませんまい、という意味であった。

公平なる外国人の批評に鑑みてよくこれに注意し、いわゆる大国民たる襟度を進めてゆかねばならぬ。そういう批評によりて段々に反省し、終に真正なる大国民となる。それと反対に困った人民だ、かかる不都合があるという批評が重なれば、人が交際せぬ相手にならぬということになるかもしれぬ。されば一人の標語がどうでも宜いといつてはおられぬ。あたかも「君子の

道は妄語せざるより始まる」と司馬温公が誠められたごとくに、仮初にも無意識に妄語を発するようになったらならば、君子として人に尊敬されるようにならぬ。してみると、一回の行為が一生の毀誉(きよ)をなすと同じように、一人の感想が一国の名声に関すると思う。

.....  
この段落の中で渋沢栄一さんが言っているのは、話がそれますが、文明の老人たるには、身体は縦い老衰するとしても、精神が老衰せぬようにしたい。精神を老衰せぬようにするには、学問による外はない。常に学問を進めて時代に後れぬ人であったならば、私はいつまでも精神に老衰ということはないと思う。

この段落を私が選んだ理由は、日本人がその時代から健忘症だと言われていたという事に驚いたからです。でたらめな事を言い出す人がいると、国全体の評価が下がるというのは今のロシアなどが典型的なのではないかと思っています。

#### 【幹事報告】

山田 利明



1. 社会奉仕委員会・子ども家庭委員会合同セミナーの資料
2. ロータリーの友手引き書  
名誉会員の方についてですが、山口さんは元気な限り続けるという事でした。あと2名の方については体調が悪く、現在入院中という方もいます。

クラブとして御見舞をどうするか、考えたいと思います。

#### 四つのテスト

高田 富康会員



小林会員のお孫さんが、甲子園大会の8月7日の午後1時の試合に出場します。小林さんも本当にうれしそうです。久しぶりに良いニュースで、楽しみだと思えます。

数ある学校の野球部の中から、更には野球部員の中から選ばれようと。本心に努力の結晶だと思えます。ケガもなく、頑張ってプレーをして頂ければと思います。

# ロータリーの友音読会

畝会長

皆さん、ロータリーの友どれくらい読んでいるのかなど。読む切っ掛けになればと思い、今回の8月号ではR I 会長メッセージを読んでみたいと思います。興味を持って読んで頂ける用意なれば、ねらいは達成出来ます。

## My ROTARY



ジェニファー E. ジョーンズ

2022-23年度会長

2022年8月

私たちは皆、違う道を歩んでロータリーの一員となりました。父親がロータリアンだったから入会した人もいます。例会に出席するようにと雇用主に頼まれたために入会した人もいます。米国最高裁判所の判決によって入会が可能になったから入会した人もいます。それでも、全員に共通する入会理由がひとつあります。招待されたから、です。

私たちの想像力を解きはなち、どんなことでも可能であることを教えてくれる招待状。私たち一人ひとりが、この招待状を誰かに贈ることができるのです。

地域社会全体を見渡し、将来のリーダーを見つけるのだと思うと心が畏敬の念にふるえます。そういうとき、自分と似ている人を誘おうと思ってしまいがちなものです。一見まったく違うように思える人びとも私たちの価値観を共有していて、同じ才能を発揮することができるのだと想っていたのには特別な才覚が必要ですから。

ロータリーは、組織全体の多様性、公平さ、インクルージョン（DEI）を推進するために、今こそ次の一歩を踏み出すべきです。

皆が自分もロータリーの一員であると感じられるような体験を大切にするというのは、単に会員層を多様化するだけの話ではありません。例会やイベントを腹を割ったオープンな話しあいの場に、会員たちが自分は求められていると感じられて安心できる場所にしなくてはならないのです。そのためには、入会の障壁を取り除き、インクルージョンのために扉を開かなくてはなりません。私たちの価値観は今後もロータリーの強みでありつづけます。それに、卓越性が求められるロータリーでは会員の高い基準を維持する必要があります。

全員がロータリー全体でDEIを推進することを心に誓い、尽力していると私は信じています。これはロータリーの最も深い伝統に根ざしており、これから数十年にわたってロータリーが活気にあふれた重要な団体でありつづける未来を保証してくれるものです。

数年前、ロータリー理事会は2023年までに女性会員の割合を30%にするという野心的な目標を設定しました。もうあと1年もありませんが、この目標を達成し、超えることができると私は信じています。

ロータリーはあらゆる大陸、文化、信条から指導者を擁立するべきです。若い世代や若い思想家に、これまで以上に大きな役割と責任を担ってもらうべきです。そして、長年活動してきた会員と同じく、新会員の声にも熱心に耳を傾け、敬意を払うべきです。

ヒューストン国際大会では、宇宙飛行士から宇宙探査の話を聞きました。1960年代にアメリカ合衆国大統領ジョン・F・ケネディが「実現が容易だからではなく、困難なことだからこそ、月にも行くし他のことにも挑むのだ」と宣言し、夢を見ようとして世界に呼びかけたことに思いを馳せました。

ロータリーがDEIに全面的にコミットし、野心的な会員目標を達成することは、月面着陸ほどあり得ないことだと思われるかもしれませんが、しかし、行動人が大きな目標に取り組むとき、全力で目標を実行することを私は知っているのです。

**出席率 33.3%**